

Title	日本企業の投資対象としてのマグレブの意義 - EUを取り巻く中・東欧諸国との比較 -
Sub Title	
Author	松村洋平(Matsumura, Youhei) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1636号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1636

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	浅川研究会	学籍番号	89928890	氏名	松村 洋平
(論文題名)					
<p>日本企業の投資対象としてのマグレブの意義 —EU を取り巻く中・東欧諸国との比較—</p>					
(内容の要旨)					
<p>EU は拡大を続け、中・東欧地域へその領域を広げている。現状では日本企業も EU 市場の周辺地域として中・東欧地域に設備や人件費の低コスト等を求めて進出している。一方 EU の南側に位置する北アフリカのマグレブ諸国（アルジェリア、チュニジア、モロッコ）にも拡大 EU の勢力圏が伸びようとしている。実際に欧州を中心とした数多くの欧米企業が当地域に進出している。しかし日本企業は詳細な現状認識をしておらず、教えるほどしか進出していない。何故日本企業は認識していないのか。地域的にもヨーロッパに隣接し、人件費も安く、日本企業の進出が顕著ではないこの地域は、将来的に日本企業にとって中・東欧地域のような投資対象となりえるのかどうかを明らかにするとともに、日本企業のマグレブ地域に関する認知度の向上に貢献したい。またチュニジア、モロッコ両大使館は日本企業誘致活動を行なっているが、チュニジアやモロッコ本国の意図とは異なり投資誘致に熱心ではなく、かつ全世界で統一した投資誘致のフォーマットの翻訳版で、日本企業への視点に立った活動をしていない。この論文では日本企業へのアンケートを通して、日本企業にマグレブ地域の認知度を深めさせるとともに、その日本企業のマグレブ地域への認識を明らかにした上で、より日本企業の視点に立った誘致活動ができるよう在日大使館に提言したい。</p> <p>潜在的なビジネスチャンスは目に見えないところに眠っている。エマージング市場となると、日本企業はアジア、中・南米、中・東欧にばかり目がいき、マグレブ地域に関しての話題をとりあげることがほとんどない。宗教や文化は全く異なるが、将来的には拡大 EU 勢力圏下におさまるであろうチュニジア、モロッコのインフラは予想以上に整っている。せめて選択肢の一つにあげても良いのでは、といことがこの論文での論点である。また、マグレブ地域への投資に関する議論はスペシフィックなものではなく、国際環境の変化次第によっては、今後はアンユージュアルな投資は増えていくであろう。そうした新たな投資先を決定する際の参考になれば幸いである。中・東欧諸国への投資もかつて EC 時代には考えられなかったが、今では当たり前の事として扱われている。</p> <p>従って日本企業にとってはマグレブ地域の認知度を上げることが潜在的なビジネスチャンスを得る KSF となるであろう。本来の価値がどうであれ、実態を認知しリソースを如何に見抜くかが鍵となる。日本企業の認識不足が続けば、マグレブ地域の価値に気づいている欧州勢との差はますます広がっていつてしまうだろう。</p>					